

2019年度スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
高知県地域ワークショップ 報告書

日時	2020（令和2）年2月21日（木）13：30－16：40
会場	サンピアセリーズ
参加者	44名 （小学校14名、中学校6名、特別支援学校12名、市町教育委員会5名、他教育関係者3名、障害者スポーツセンター2名、日本体育大学2名）
プログラム	<p>13：30 開会挨拶 高知県教育委員会事務局保健体育課 チーフ 大塚剛弘</p> <p>13：35 事業説明 高知県教育委員会事務局保健体育課 指導主事 山岡誠</p> <p>13：50 講話：「認め合う心を育てるパラリンピック教育」 日本財団パラリンピックサポートセンター推進部 プロジェクトマネージャー マセソン美季</p> <p>15：00 休憩</p> <p>15：10 推進校による実践報告 ・宿毛市立宿毛小学校 宿毛市立宿毛小学校 教諭 池本晃翔 ・宿毛市立片島中学校 宿毛市立片島中学校 教諭 野村綾彦 ・香美市立香長小学校 香美市立香長小学校 教頭 白石ゆり</p> <p>16：10 オリンピック・パラリンピック教育の取組の現状 日本体育大学 特別研究員 大河原裕迪</p> <p>16：40 閉会</p>
内容	<p>開会にあたり、高知県教育委員会事務局保健体育課チーフより、日頃より既存の学習活動とつなげながら工夫して実践していただいていることに感謝していると挨拶があった。</p> <p>はじめに、高知県教育委員会事務局より、県のオリンピック・パラリンピック教育の方針と取り組み内容について説明があった。</p> <p>講話では、パラリンピック教育を実施する上での考え方やポイントについて自身の障がいの経験も交えながら伝え、「I'mPOSSIBLE」の具体的な活用方法が紹介された。</p> <p>実践報告では、パラリンピアンとの交流をきっかけをとした特別支援学級の児童の変容について、ホストタウン交流、オリンピックと環境教育を関連させた取組みについて報告があった。</p> <p>本学からは、本事業の目的とオリンピック・パラリンピック教育について、他県での実践事例を説明した。推進校以外の教育関係者も参加していたことから、特にオリンピック・パラリンピック教育の進め方について、既存の取組みにオリンピック・パラリンピック教育を切り口として活用することで負担を軽減して展開させることについて強調した。</p>



会場の様子



話し合いの様子